

日時：2022年5月27日（金）13:00～15:00

会場：関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス E号館202号室（+オンライン）

出席者（敬称略）：有光興記（理事長）、澤田匡人（副理事長）*、稲垣勉（事務局長）、阿部恒之、伊藤義徳*、岩佐和典*、内山伊知郎、大竹恵子、北村英哉、木村健太、蔵永瞳、白井真理子、鈴木まや、中村真*、成田健一、一言英文、藤村友美*、武藤世良
*オンライン参加

代理出席者（敬称略）：木村昌紀（前編集事務局）

委任（敬称略）：大平英樹、佐藤徳、樋口匡貴、山本恭子

【審議事項】

1. 2021年度の決算案

- ・有光理事長より、資料に基づき、2021年度の収支決算報告および谷口高士監事、村田光二監事による監査の結果が提示され、承認された。

2. 2022年度予算案

- ・有光理事長より、資料に基づき、2022年度予算案について説明がなされ、承認された。
- ・懇談事項1を踏まえて、「感情心理学研究」については昨年度発刊できなかった29巻の3号分に加えて、30巻3号の6号分を予算計上した。

3. 2021年度（第29回）大会（学習院女子大学）の会計報告

- ・木村（健）前大会事務局長より、2021年度（第29回）大会の会計報告がなされ、承認された。

4. エモーション・スタディーズ（Emotion Studies）発行に関する規程の改正

- ・藤村副委員長より、これまでESの発行については感情心理学研究の規程に従っていたが、この点を「発行に関する規程」に明記することが提案され、承認された。
- ・エモーション・スタディーズの著作権譲渡書について、「すでに他の著作物へ著作権を譲渡」という箇所について、著作物に譲渡することはできないという指摘があり、当該箇所の修正が提案された。審議の結果、「学会等へ」と変更することとした。なお、本件は同様の文言のある感情心理学研究の著作権譲渡書にもあるため、学術プログラム委員会と感情心理学研究編集委員会とで相談を進めることとした。

5. 来年度以降の大会開催

- ・有光理事長より、2023年度（第31回）大会は人間環境大学（大会委員長：伊藤義徳先生）にて開催することが提案され、承認された。また、伊藤義徳先生よりご挨拶をいただき、現在のところ2023年5月26日から28日にかけて開催の予定で準備を開始する旨の報告があった。2024年度以降については未定であるため、有光理事長より積極的に検討して欲しい旨、依頼があった。

6. 会費未納による除名

- ・有光理事長より、資料に基づき、会費未納者の確認が行われた。3年間以上の会費未納となっている会員の除名が承認された。

7. 常任理事の互選（3名）

- ・2022年度－2024年度の常任理事について、残り3名について理事による互選が行われた。被投票権者は、2016－2018年度と2019－2021年度の2期連続で常任理事を務めた樋口匡貴先生、北村英哉先生と、既に常任理事である7名を除く13名であった。3名連記による投票の結果、大平英樹先生、中村真先生、一言英文先生が選出された。

8. 名誉会員推戴、顧問推戴

- ・有光理事長より、現在顧問をなさっている荘厳舜哉先生、鈴木直人先生、大坊郁夫先生の名誉会員への推戴、ならびに前理事長の湯川進太郎先生の顧問への推戴について検討依頼があり、中村先生より補足説明があった。常任理事による審議の結果、いずれも承認された。

【報告事項】

1. 会勢報告

- ・有光理事長より、資料に基づき、現在の会勢が報告された。

2. 各委員会報告

- ・学術プログラム委員会（年次大会／セミナー／出版）

木村（健）委員長より、資料に基づき、学術プログラム委員会活動および第29回大会の開催状況、第30回大会のプレカンファレンスについての報告が行われた。

有光理事長より、本年度より国際化担当（一言先生、武藤先生）を設けたという報告があり、国際的にも感情研究は盛り上がっているのので、会員に積極的に情報提供をしていきたい旨の説明があった。

- ・機関誌刊行委員会（感情心理学研究／エモーション・スタディーズ）

- ・感情心理学研究編集委員会

木村（昌）前編集事務局より、編集委員会活動についての報告が行われた。また、学会誌への投稿数および審査状況の推移、倫理関連の検討、査読者の選出基準、再投稿期限の延長申請への対応についても報告がなされた。

- ・エモーション・スタディーズ編集委員会

藤村副委員長より、編集委員会活動についての報告が行われた。また、ESの発行状況について報告が行われた。

- ・倫理委員会

成田委員長より、条文の整理について検討を進めている旨が報告された。

3. 表彰関係

・有光理事長より、学術貢献賞および大会発表賞、精励発表賞の各賞について報告がなされた。受賞者の先生方は以下の通りである。

・学術貢献賞：

池田慎之介先生（対象論文は以下のとおり）

26 巻 1 号：（池田慎之介）表情・音声・音楽からの感情認識における感情語の役割の検討—感情語に対する意味飽和を用いて—

26 巻 1 号：（池田慎之介）背景色が表情からの感情認識に及ぼす影響

印刷中：（池田慎之介）感情語彙サイズ推定テストの開発—コンピュータ適応型テストを用いて—

福田 哲也先生（対象論文は以下のとおり）

21 巻 2 号：（福田哲也・樋口匡貴・蔵永瞳）羞恥表出者に対する観察者の評価および行動—表出者の表情による違い—

23 巻 3 号：（福田哲也・樋口匡貴）羞恥場面における観察者の行動が羞恥感情に及ぼす影響—公恥状況における影響およびその影響プロセスの検討—

28 巻 3 号：（福田哲也・蔵永瞳）軽蔑を特徴づける状況—嫌悪・怒りとの比較を考慮した探索的検討—

・大会発表賞

・優秀研究賞：一言英文先生（共著者：澤田匡人先生）

題目：階層の痛みと人並みの和らぎ：コロナ不況下における妬みと協調的幸福感

・独創研究賞：武藤世良先生（共著者：白井真理子先生，中村真先生）

題目：心理学者は『情動』をいつから使い始めたのか？—J-STAGE を対象とした予備的検討—

・グッドプレゼンテーション賞：関谷大輝先生

題目：コノ風呂，入ルベカラズ —入墨を拒否・許容する入浴施設に対する印象評定の差異に関する検討—

・精励発表賞：蔵永瞳先生，福井義一先生

4. その他

【懇談事項】

1. 「感情心理学研究」編集状況について

・木村（昌）先生より、学会誌発行状況の説明があった。第 29 巻（2021 年度）について、1 号 3 本の原則（編集規程第 3 条）に則る場合、3 号の論文が不足している状況であり、3 号の扱いについて編集委員会で議論をしている。理事の意見についても聴取したい旨、申し出があった。懇談の結果、29 巻 2・3 号合併号を設けることや、特集号を設けるなどの提案がなされ、編集委員会での検討が依頼された。

編集委員会で検討したのち、結論を理事会に諮ることとなった。

- ・有光理事長より、若手の方に投稿してもらえるよう積極的に働きかけてほしい旨、依頼があった。

2. 大会賞について

- ・有光理事長より、若手のための賞がないことや、投票数が少ない(重複受賞者が多い)ことに関連して、会員を増やすための方法について、検討してほしい旨の依頼があった。

3. 学会事務局について

- ・学会事務局との連携・対応について意見交換がなされた。

4. 国際化, affective science の学会員への紹介

- ・有光理事長より、国際化の一環として affective science で著名な Lisa Feldman Barrett 先生を3年後を目指して招聘したい旨、説明がなされた。

5. 公大協コアカリキュラム案件 パブリックコメントへの対応について

- ・有光理事長より、パブリックコメントの募集について情報共有があった。コメントは学会としてでも、個人として出すことも可能であること、学会として出す場合は理事会が集約することが説明された。

参考：https://psych.or.jp/qualification/shinrishi_info/20220620_public-comment/

6. 会費徴収システムについて (阿部先生)

- ・阿部先生より、日本心理学会が会員管理システムを更新中であり、それに併せて他の学会も使用可能なシステムを構築しようとしている旨、情報共有があった。7月から稼働予定であり、テストケースとして質的心理学会が採用予定であるとのことであり、意見交換の結果、質的心理学会での稼働状況を見て、本学会もメリットがある場合は参加を検討してもよいのでは、という意見が出された。

以上